
俺 = 女！？

ニヤー丸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺♀女!?

【Nコード】

N3214H

【作者名】

ニヤール丸

【あらすじ】

性転換が含まれます、御注意ください

プロローグ（前書き）

初めてです。楽しんでいただければ嬉しいです

プロローグ

朝、（すごく起きたくない）と憂鬱になっていると毎度の事ながら弟が「起きろ〜！」と、のしかかってくるはずだった。しかし今日は違った。

「起きろ〜！」と部屋に入って、俺を見るなり「だれ、あんた、、、」といったのだ。

まあ、俺もデブだし、運動できないし、顔は悪いし、と悪いことだらけの人間だから朝起きたらいきなりイケメンに〜なんて事も考えなくは無いのだが、しかし現実つてきびしいねエ。

起きあがるのが妙にいつもより体が軽く起きあがりやすい。「?」
という表情を浮かべながら「な〜に言ってるんだ？俺はいつもの俺だぜ」声が妙に高い、さらに「?」という表情を浮かべていると弟が「ちがう、、、だってお兄ちゃん女の子じゃないもん!!。」

「え」軽くフリーズしたね。本っっ当に。
さらに追い打ちをかけるように「しかもこんなに可愛い女の子な訳がない!」

もう笑うしかないね。アツハハハハハハ（涙）こうして意味の分からない生活がはじまってしまった!

プロローグ（後書き）

主人公、弟の名前は次に出します。すみません

更新スピードは遅いと思います。何度もすみません

俺の悲しみ母の喜び（前書き）

楽しんでくれたら嬉しいです

俺の悲しみ母の喜び

さあ〜と、弟 祐二（小5）の言ってる事が本当かどうか確かめないで、って「え！」驚いて声が出てしまった。昨日切った髪が腰の所まで伸びている。しかもサラサラのになっっているし。

ということは『マジで女になってる！！』ダメだマジだったんだ、とにかく祐二に俺が本物だってわからせないと！。

「で、あんたは誰？何でここに居るの？」

「俺は長澤龍騎ここは俺の部屋だから居るの悪いか！」

「へえ〜あくまで兄貴だって言うなら証拠あんのかよ！」

「お前は小学四年の時に〜」

「あなたは僕の兄貴です。すみませんでした」

祐二の誤解はとけたけど、だから戻るわけじゃないからなあ。まあとにかく親に言おう

「というわけで女になっちゃった。」母は目を輝かせこっちを見る。「事情はわかったわ、今日は学校を休んであなたの新しい服を買いに行くわよ！」うわあ〜何、あの希望に満ちた表情は、もうああなると止める術はないと言っても過言ではない。

そりゃあずつと願っていた夢だもん、はしゃぐのはわかる。だが、人が困っているのに、俺は戻りたいのに「服を買いに行くわよ！」って俺に女として生きるって言っているような物だよ

「そうだけど何か文句あんの」

「人の心を勝手に読むなあ！」おもわず叫んでしまった、しかし母はそんな事はあ気にもせず上機嫌でこんな問題発言（そう思っているのは俺だけかもしれない）をした。

「しかし本当に効くとはねえ〜」

「今なんつつつた（怒）」

「え、初詣の時に龍騎が女の子になりますよ〜っておねがいした

のよおゝ祐二と一緒にね（笑）」

「ゆゝうじ君ちよこゝつと話を聞かしてくれるかな（怒）」
逃げようとした祐二の肩をつかみ引つ張る、そう簡単に逃げられて
たまるか！。

祐二によると母にすがられて仕方なく願つたらしい
事情聴取が終わつた頃に母も学校への連絡を終えたらしくこつちに
来た

「さあ行くわよ」

「どこに行くんだよ」

「あなたの服を買いによ、さっき言つたでしょ」

「ちよつと待てえええ！」

「そつだよ少し待とうよ！」

ありがとう我が弟よ救いの手をありがとう。そこまで兄の事を思っ
てくれているなんて、兄は嬉しいぞ！

「行くんだつたら僕も連れて行つてよ！」

「あんたはだめよ！学校があるでしょうが！」

「ケチっ！」

何言つてるんだよ！こんのクソガキ！

「暴言はいけないんだよ。今は女の子なんだから」

「お前まで心を読むとは・・・」

「じゃあさつさと行くわよ」

母はいままで出した事の無い笑顔を浮かべている

「じゃあ逝つてらっしや〜い」

「いくの字がなんか怖いぞおお〜」

「つべこべ言わずに早くいくわよ」

俺の悲しみ母の喜び（後書き）

長澤龍騎 中学2年 好物：カレー

嫌いなもの：勉強

趣味：機械いじり、釣り

来たー女性服売場へじごく（前書き）

すみません。だいぶ更新遅れました。ビュン ゴス！（あう物を投げないで）「何でこんなに時間かかったくせに短いの〜！（怒）」
と思われる方。本つつつ当にすみません

来たー女性服売場へじごく

人の事を何も考えない母でもさすがに服を着替える時間はくれた。

さすがに寝る時に着ていた、ジャージで出かける訳にもいかないしな

「さーて着替えるか…」

俺はジーパンにTシャツを取り出して着替えようとした。そのとき部屋のドアから覗いていた母が（俺はちろん気付いていなかった）にや〜っと笑いながら言った

「龍騎イ〜女の子の裸見ちゃうことになるわよ〜」

「あ〜」

全然そんな事考えて無かった。

下は下着で隠せるが、上は女じゃあるまいし（今は女だが…）モロに見えてしまう。だが見なければ着替えられない。しかし見たら自分の中のプライドという物が壊れてしまいそうな気がする、いや気がするではなく壊れる。確実に…。でもジャージで行くのは避けたい。

ええい見てしまえ！。

顔は鏡で見れば自分で言うのもなんだが、スツツゴイ可愛かった。

顔自体は小さく目はクリツとしている、鼻も小さかった。キレイな人では無く、背が低い目のかわいかった。胸はすっごい貧乳で本当に中2なのか？つてぐらいの子供体型だった。

何だ！見たのかって！見たよ見ましたよいろんな物を捨ててね！。

ってそれは置いといて（置いておくのか！？）デパートの中を歩いていた。もちろん、目的地は女性服売り場だ。

行きたくない！！と思ったが。何故か俺は母には逆らえない。何故かは俺にも分からないが物心がつく前に何らかのトラウマを俺に植

え付けられたらしい。今でも体が覚えていいる本^{マシ}気で怒った母の恐ろしさは本当に恐ろしい。

いろいろ悩んでいる間に来てしまった。女性^{じょせい}服売り場への入り口に

…

来たー女性服売場へじごく（後書き）

また更新遅くなるかもしれません（涙）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3214h/>

俺 = 女！？

2010年10月9日07時57分発行